

コロナ禍における雇用状況に関する考察 ～就職率、離職、無職について～

報告者 六ヶ村晋之介
鈴木紫夕

目次

1. 昨年の就職率
2. コロナ禍での就職率
3. 昨年と今年就職率の比較
4. 今後の就職率について
5. まとめ

問題意識、研究目的

昨年の大学（学部）卒業生の就職率は 98%である。政府はこれを「アベノミクス効果」と謳っているが、果たしてあなたの身の回りの大学生は、そこまで漏れなく就職できているのか。新型コロナウイルスの感染拡大による今後の就職活動への影響はあるのか、どうか検討してみたい。

内容

なぜ就職率が低いのか。コロナ禍の影響で『法的整理』（629 件）『飲食店』（105 件）『ホテル・旅館』（65 件）『アパレル・雑貨小売店』『建設・工事業』（各 46 件）『食品卸』（36 件）『アパレル卸』（26 件）などの会社が倒産したためである。理由としてコロナウイルスの影響を受け、この業種別に倒産した企業を見ていくと、人と密接する会社が多いことがわかる。その中でも飲食店は料理、配膳、接客などで様々な感染リスクがあり、来客が少ないため倒産したと考えられる。

結論

コロナの影響を受け就職率は確実に下がっている。今後といってもいつコロナが収束して安定した就職率を手にするかはわからない。特に今年社会人を迎えた人やこれから迎える人、また自分たちが就職するときには間に合っしてほしいというのが本音である。企業だけでなく政府や厚生労働省など政府機関による緊急雇用対策が求められている。